

2. 調査概要

「パ」国の環境現況を把握するためには、全国レベルでの最新資料の収集とともに、調査の一環としてフィールドデータの取得が重要である。特に都市環境の悪化は急速に進んでいると言われ、なかでも直接健康被害に結びつく水環境問題を現地調査データで把握することは重要である。

本調査では、首都においては環境・地方政府・地域開発省の出先機関である連邦環境保護庁(Pakistan Environmental Protection Agency: Pak-EPA)を中心として、環境問題に関連する連邦政府機関、首都開発局、国際機関等へのヒアリング、情報収集および廃棄物処理計画に係る現地視察を行った。

また、現地調査は全国主要都市の中から人口規模の点で典型的な北西辺境州の首都ペシャワールを対象として州政府や市行政機関へのヒアリングと現地踏査を行った。

都市環境を水循環の立場から考察するためのフィールド調査として、一定規模の河川流域を対象として工場排水、下水排水、廃棄物処分場排水の水系への影響を把握するため、市内 Hayatabad 地区にケーススタディ調査流域を選定し、基礎的な社会環境データ、流量と水質分析、廃棄物の量と質について現地調査計画を策定した。現地調査は、連邦環境保護庁の協力の下に行われ、結果は本調査の一環として付属資料に示した。

さらに、本調査の一環として国内最大の産業都市であり、唯一の港湾都市であるカラチ市において、産業界の取り組みとして皮なめし業組合の排水共同処理施設建設現場、カラチ港環境汚染管理所等の視察も行った。

本報告書では、国家レベルでの環境問題を取り巻く状況を環境分野ごとにまとめるとともに、フィールド調査で得られた都市環境の個別の特徴について関連分野のコラムに示す。

以下に、本調査団員の構成と行程を示す。

調査団員の構成

氏名		所属	
団長	山本勝彦	(社)海外環境協力センター 嘱託研究員	日本技術開発(株) 執行役員
副団長	山貝廣海	同上	日本技術開発(株) 国際事業部
団員	佐井 茂	同上	(株)関西総合環境センター
団員	吉成仁志	同上	(株)テクノ中部
団員	安納剛志	同上	日本技術開発(株) 環境施設部
業務調整	黒木浩則	同上	日本技術開発(株) 環境技術センター

調査行程

- 平成 15 年 10 月
- 5 日 (日) 成田空港～バンコク～カラチ
 - 6 日 (月) カラチ～イスラマバード(ISB)
JICA パキスタン事務所・在パキスタン国日本国大使館
 - 7 日 (火) 連邦環境保護庁(Pak-EPA)
 - 8 日 (水) イスラマバード～ペシャワール(PSW)
北西辺境州環境保護局 (NWFP-EPA)
 - 9 日 (木) ペシャワール市内調査 (河川環境 / 廃棄物 / 排水)
北西辺境州森林・環境部
ペシャワール市開発・行政部
 - 10 日 (金) ペシャワール市長・副市長
辺境州都市開発公社
 - 11 日 (土) パキスタン環境保護財団(NGO)
パキスタン森林研究所 (環境省)
車輛検査所(VETS, NWFP-EPA)
 - 12 日 (日) 市内視察 (一部団員移動 : PSW ~ ISB)
 - 13 日 (月) 北西辺境州地方政府・地域開発部 (PSW ~ ISB)
環境省森林監督官事務所 (ISB)
 - 14 日 (火) 食糧・農業省農業研究所
首都開発局 (イスラマバード特別行政管轄区)
環境・地方政府・地域開発省 環境部
 - 15 日 (水) 環境保護審議会 (環境省)
科学技術省水資源研究所
首都廃棄物最終処分予定地視察
 - 16 日 (木) 保健省保健事業学院
ENERCON (環境省)
UNDP 環境活動計画サポートプログラム(NEAP-SP 2)
 - 17 日 (金) JICA パキスタン国事務所・在パキスタン国日本国大使館
イスラマバード～カラチ
 - 18 日 (土) シンド州環境保護局
カラチ港監督署海洋汚染管理局
「パ」国皮なめし業組合(PTA)
カラチ発 ~
 - 19 日 (日) バンコク経由 ~ 成田空港 (一部関西空港)